

# あか牛

第54号



前進するあか牛

(撮影・吉村征彌氏)

1985.1

社団法人日本あか牛登録協会

## ◎ 牛肉需給の推移

(単位：1,000トン)

	35年度	40	45	50	51	52	53	54	55	56	57	58
需要量	103	145	221	291	315	348	389	403	418	442	477	—
生産量	99	137	197	235	216	260	284	280	302	333	338	353
輸入量	4	8	23	64	94	92	102	132	120	121	139	146

資料：「食料需給表」

(注)：部分肉ベースの数値である。(57・58年度は概数)

## ◎ 種類別牛肉供給量の推移

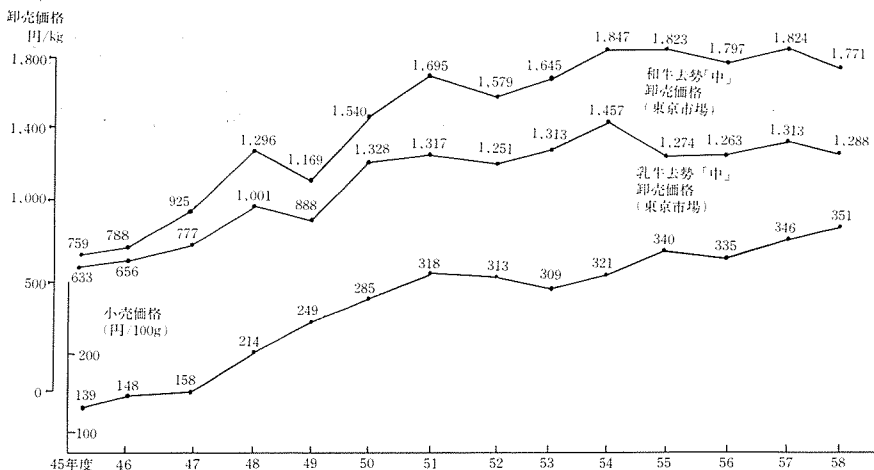
(単位：1,000トン・%)

	45年度	50	54	55	56	57
国産牛肉	197(90) 000	235(79) 000	280(68) 000	302(72) 000	333(73) 000	338(71) 000
うち肉専用種	108(49) (55)	91 (30) (39)	102(25) (36)	93 (22) (31)	96 (21) (29)	102(21) (30)
乳用種	84 (38) (43)	142(47) (60)	177(43) (63)	208(49) (69)	236(52) (71)	236(49) (70)
うち乳雄	24 (11) (12)	68 (23) (29)	89 (22) (32)	106(25) (35)	122(27) (37)	121(25) (36)
輸入牛肉	23 (10)	64 (21)	132(32)	120(28)	121(27)	139(29)
計	220(00)	299(00)	412(00)	422(00)	454(00)	477(00)

資料：「食肉流通統計」

(注)：部分肉ベースの数値である。

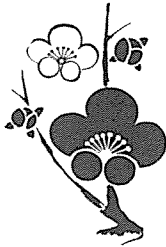
## ◎ 牛肉価格の推移



資料：「食肉流通統計」 総理府「小売物価統計」

# あ か 牛

(第54号)



1985・1

---

## 目 次

- うし年に思う……………会長 堀 力…… 2
- 座談会 これからのあか牛作りについて…………… 4
- 褐毛和種去勢牛の肥育過程における枝肉構成及び肉質の変化  
枝肉構成等からみた仕上げ時期の目安  
熊本県畜産試験場 住尾善彦\*・堀 英臣・広松重弘  
熊本県畜産試験場……………10
- ヨーロッパ諸国を旅して……………松川 昭義(本会事務局長)……17
- 会 報……………25
- 子牛市況……………39
- 時の話題……………43

# うし年に思う

— 1985年を迎えて —

会 長 堀 力

全国のあか牛関係者の皆さん、明けましておめでとうございます。

ところで昨年は、わが国にとって懸案であった対米、対豪の農産物交渉が一応決着をみました。交渉の結果については周知の通りで、今さらここにご紹介するまでもありませんが、ただ言えることは、これから先日本の農業、畜産を進める上で「世界が相手」という立場が強まってきたことは否定できないと思います。

今年は60年代の幕あけの年であります。また幸いにも、私どもにとって縁起のよい「ウシ牛」にあたります。幕あけの年にふさわしい明るい年になってもらいたいと願いたすしだいです。

さて、60年代の肉用牛界はいかなる方向に展開するのでありましょうか。皆さま方もそれぞれ予測をたてておられることと思います。さきにも申し上げたように、国際的な競争が以前にも増して強まることは疑う余地がないにしても、生産性の向上とコストの低減といった経営努力が一層重要になってくるものと思います。

そこでまず申し上げたいことは、肉用牛経営をされる場合、あまり目先の動きにまどわされないで地道にやっていただきたいと思います。と言いますのは、農家の気持の中に、「値段が上がれば牛を買い、下がれば牛を売る」という考え方が多く、現在も続いているということです。しかし、そういう目先の動きを追って成功した例はあまり聞きません。反対に「牛で損をした」という声につながる例が多いようです。

そこで価格の変動をもうすこし掘りさげてみてみますと、その時の景気の好不況もありますが、「価格上昇→牛をかう→頭数増加→価格下落→牛を売る→頭数減少→価格上昇」といった連鎖反応を繰り返しているからだと思います。

過去の歴史というのはこれの繰り返しかえしにすぎないような気がいたします。60年代もこの傾向は続くかもしれませんが、皆さま方は自分のマイペースで経営と取り組んでいただきたいと思います。

次に価格の問題ですが、「ウシ年には値上りする」というジンクスがあります。そうなれば誠に結構なことですが、あまりこれが暴騰すると先のような連鎖反応が強くなってくると思います。できれば適当な値段で安定してほしいと思います。子牛の価格というのは生産者もそして購買者である肥育農家も成り立つ価格でなければ安定しません。そこで昨年暮れに農家の方の声をうかがってみましたところ、もと牛（去勢）はキロ当り850～900円程度が、生産者も肥育農家も成り立つ適正価格ではなかろうかというご意見でした。（ただし800円を割ると生産者は苦しくなると付け加えていた）。もちろん、子牛の出荷月齢や個体差にもよるかもしれませんが、たいへんごもっともなご意見として拝聴したしだいです。

あか牛がすばらしい特性をそなえた牛であることは誰れもが疑うことはないと思います。そして生産者の皆さん達が、汗水流して作りあげた肉牛が牛肉となって消費者に届くときにはその名声はどこかに飛んでいってなくなっている感じです。現に昨年暮れに、東京はじめ大都市で牛肉消費動向のアンケート調査を実施してみました。驚くことにほとんどの人があか牛又はあか牛牛肉については知らない人でありました。いわゆるPR不足であったわけで、その責任を痛感しているところ。しかし幸いなことに、今年は生産地の熊本県が音頭をとって「肥後牛」の名称で大々的にPRを実施されることになり、たいへん心強いこととして関係者の方々に敬意を表したいと存じます。ただこういったPR活動は単発では効果が薄いわけでありましたので継続した形で実施されるようお願い申し上げますとともに、登録協会といたしましてもしかるべく対応策を検討いたしております。いずれは皆さま方の御知恵を拝借することになると思いますのでよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、登録協会の第1の使命は良い種ものを作ってこれを広く普及させることにあります。そのカギは生産者各位の双肩にかかっているものと確信いたします。皆さま方の一層のご活躍をお祈りいたしまして新年のごあいさつといたします。

## 座談会

# これからのあか牛作りについて

この座談会は、(社)日本食肉協議会の委託による「低コスト牛肉生産体系確立のための組織的情報の収集、分析等の事業」の一環として開催した「繁殖経営研究会」の討論会の中で「これからのあか牛作り」について話し合ってもらったものである。なお今回の出席者は、生産者代表として、全国農林水産祭に出品された5名の方々、それに各地域の指導的立場におられる方々である。司会は九州農試寺田家畜第一研究室長及び本会松川事務局長に担当してもらった。〈紙面の都合で内容の一部は割愛した〉。

**司会** ことは待望の“ウシ年”にあたり、また60年代のスタートの年でもあります。そこでこれからの肉用牛界、特にあか牛はどうなるのか、価格や頭数はどう推移するのかなど、それぞれ心配や期待をお持ちと思います。まず生産者の方から経営の現況やこれからの抱負などをお聞かせ願いたいと思います。

**大野秀人**（昭和55年度の農林水産祭出品者）

私は肉用牛と養豚それに人工授精、スーパー経営など多角経営をやっていますが、肉用牛経営は育成が主体で、繁殖は良いものを5～6頭残しています。全体で約30頭余りです。農林水産祭に出品して一番うれしかったことは、私共の地域で牛がなくなりつつあったのが、それに刺激されて減少傾向に歯止がかかり、むしろ増加に転じたことです。私自身も地域のリーダーとして頑張らねばならないと自覚しているところです。

**伊藤広義**（昭和56年度の農林水産祭出品者）

現在、子牛価格低迷が続いていますが、私たちの阿蘇地域は採草地、放牧地にめぐまれており4～11月まで放牧できます。これが低コストにつながると思います。どの農家もこの放牧地を有効的に利用して現在の子牛価格低迷期を乗

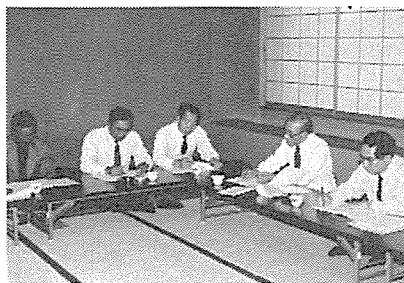
りきろうとがんばっています。

しかしこれだけでは不十分です。現在のように外国から輸入され、肉がだぶついているときは、誰でも好むおいしい肉を作り“あか牛の肉はおいしい”というイメージを残す必要があります。そうなると肉質の改良をしなければなりません。今後は体型ばかりでなく、肉質面も考慮して生産に努力してゆきたいと考えます。

**栗焼重春**（昭和57年度の農林水産祭出品者）

私が牛を飼うことで一番注意していることは、繁殖牛は体に脂肪をつけないようにしていることです。私は県共進会でもグランドチャンピオンをとりましたが、私の飼っている牛は、チャンピオン牛も18才の年寄り牛も肉付きに差がなく、皆発情や種付けも順調です。

私はほとんど1年を通じてとうもろこしサイレージを与えており、ふすま、圧ペンはあぶらがつかないように与えています。そして毎日運動をさせ、日光にあてることを心がけています。



**府内隆博**（昭和58年度の農林水産祭出品者）

私は現在、繁殖牛5頭、育成牛1頭飼養しています。今年で牛飼いを始めて13年になりますが、親の力を借りず、最初から1人でやっています。

私は、繁殖経営は粗飼料主体でやらねばならないと考えており、1頭あたり年間イタリアン20aが一番適当であると思います。現在は、とうもろこしサイレージ、フスマを2kg弱与えていますが、繁殖牛は濃厚飼料を与えないのが基本と考えています。

**平井義昭**（昭和59年度の農林水産祭出品者）

私は肉用牛＋米＋タバコの複合経営です。繁殖成牛7頭、育成牛1頭を飼育して、タバコを9反ほど作っています。現在、子牛価格が安いので、だいたい粗飼料中心で飼っています。そうすれば価格が安くても採算が合います。

今年農水祭に出品し、山口県や兵庫県の人たちと話をする機会がありましたが、皆、あか牛の発育の良さ、回転の速さに驚いていました。私自身も1年1産と早く大きくなる牛づくりを目標にしています。

**司会** 本日は畜産農協の組合長さん、技術指導員の方もおみえになっていますのでいろいろかがいたいと思います。

**国武 博**（矢部畜産農協組合長）

牛を飼っている人なら、皆、農林水産祭に出品することが夢であります。今回、皆さんの平素の状況がわかり大変勉強になりました。

私は、昭和36年に繁殖牛35頭から始めて、100頭に増頭することが夢でした。しかし、とうとう実現することができませんでした。それだけ多頭飼育がむずかしいとわかりました。

繁殖経営でもうかる畜産を行うには、粗飼料対策でコストを下げ、必ず1年1産をやらなければならないと思います。今日のように世界を相手にする中では、数が多いだけでなく、系統の進んだ牛を選び、誰からも好まれる牛づくりをやらねばならないと考えます。

今後は「発育がよく、サシもある程度入った系統づくり」「草づくりによるコスト低下」を目標にやっていきたいと考えます。

**工藤益雄**（球磨畜産農協参与）

繁殖牛は草で飼う、体に脂肪をつけさせないとの意見は、まったくその通りだと思います。

子牛を市場に出す月令と体重との問題ですが、これは地方によって隔差があると思います。ところで、市場に出すまで子牛にどれだけ濃厚飼料を与えているのか、教えてほしいのですが。

**大野** 私は24年間牛を飼っていますが、状態をみて勘と経験で与えています。

**工藤** 昔の牛は役牛であり、価格は体高で決めていました。しかし、その後体重を計るようになってから濃厚飼料をある程度与えなければならなくなりました。10年ぐらい前の牛は体重が即価格につながり、300kgの牛は300kgの濃厚



飼料が必要とされていました。

**後藤幸男**（南阿蘇畜産農協）

我々は農家に対して濃厚飼料を与えるなどという指導はなかなかできません。そのかわり、粗飼料をたくさん与えよと言っています。また、品評会、座談会および生産検査などを通じて、購買者に喜んでもらえる牛は、どんな牛かを指導したり、又、研究したりしているところです。

私たちの地域は放牧地帯なので、子牛生産検査を市場の1ヵ月半前に行います。そのとき放牧場から牛をおろして、ある程度増し飼いをすると、市場までに見違えるほどよくなっています。

**内村順一**（菊池畜産農協）

菊池の場合、平担地であり、矢部や南阿蘇と比べると牛の管理、市場の評価も低い状態です。最近の価格低迷期においては管理もおちこんでいます。

出荷目標としては、雌で9ヵ月290kg、去勢で10ヵ月305kgとありますが、市場に出すまで平均350kgの濃厚飼料を与えていると思います。

**大村直純**（東肥畜産農協）

私は、市場に出すまで、最低体重の1%の濃厚飼料が必要だと思います。そうでないと、正常な発育はしないし市場での商品価値のある牛はできないと考えます。

ただ、とうもろこしサイレージなどのように栄養価の高いものは粗飼料でも代替できます。そうすれば濃厚飼料偏重から少しは脱却できると思います。

**寺田隆慶**（九州農試家畜第一研究室長）

黒毛和種の場合では6ヵ月までに300kgの濃厚飼料を与え、市場までには500～600kg必要です。

**国武** 矢部では、生後300kgで出荷するように指導しています。これなら飼料代、子牛価格安定基金両面を考えても一番有利です。そしてkg当たり、850円～900円が生産者にとっても肥育業者にとっても適正価格だと考えます。

**城 光宣**（本会常務理事）

私も体重の1%が濃厚飼料の基準量だと思います。それに母牛の乳量の差によって、多いものは子牛に濃厚飼料を与えなくても乳だけでどんどん大きくなる牛もいます。そこで給与法ですが、濃厚飼料1に対して良質の消化しやすい

粗飼料4～5の割合が適当と思います。牛の生理機能を考えても子牛のときに良質の粗飼料を多く与え、消化機能を高めておく必要があります。市場でも濃厚飼料だけで飼った牛は評価が低いですが、粗飼料を与え、運動させた牛は高い評価を受けています。

**司会** 価格のことがでましたが、子牛価格はいくらぐらいまでなら再生産が可能でしょうか。



**大野** キロ当たり800円が限度です。

**府内** 同じキロ当たり800円でも8ヵ月出荷、10ヵ月出荷によって異なります。この差が一番大きな意味をもっています。

**司会** 牛を飼うにあたってはうれしいこと、辛いことなど多いと思いますが皆さん方の体験談をお聞かせください。

**大野** 私は、これまで牛のことばかり一生懸命で、子供の相手をする暇がありませんでした。牛飼いは、やはり家庭円満でなければならないと思います。

**伊藤** 3日間のセリ名簿を見て、どの種雄牛の子が高く売れているかデータをとり、その後の交配を考えています。

**栗焼** 私は、子牛を早く離乳するよう心がけています。時期も4ヵ月が限度で、2ヵ月ごろから飼料を与え親にも3～3.5kg与えます。こうすることによって20年も使える牛ができます。

**府内** 私は系統牛を増やすことを目標にしています。

**府内夫人** 結婚して9年になりますが、毎日叱られ叱られやってきました。一番辛かったのは、主人が病気のときでした。何度も牛飼いをやめようと相談しました。

**平井** 現在、私の住む泗水町にはあか牛飼養農家110戸、頭数約400頭いますが、私は人より100円でも高く売るように心がけています。そうすることによって皆がついてきてくれます。

**平井夫人** 牛飼いで一番うれしいのは、子牛を市場に出し、その代金をいただくときです。私の主人は他の人から世話してくれとたのまれるとどんなにいそがしくても出て行きます。残された私は1人で仕事をしなければならず、腹が立つことも何度かありました。しかし、よその人から「良い牛を世話してくれてありがとう」と言われたとき、「ああ、よかった」と苦労はいっぺんに吹っ飛んでいきます。

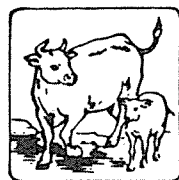
**司会** 皆さん方が丹精こめて作られた牛をこれからは消費者に喜んでもらわなければなりません。その点PRが重要になりますが、熊本県では計画をもっておられるようですが。

**松本道夫**（熊本県畜産課）

熊本県としては、今までのように作るだけでなく、牛肉を売る方（流通面）にも取り組むということで、1月10日から東京で「肥後牛フェア」を主催することになっています。このような催しを年2回程やっていく計画です。

**堀** 本日は農林水産祭出品者5名とそれぞれの関係の方々にお集りいただき、牛飼いの喜び苦しみ、その他畜産問題についてお話し合いをしていただきました。それを総括しますと、これからのあか牛の進む方向として、特性である早熟性を生かし、肉質の改善を進め、一方では草づくりなどを通じてコストの低減に努めること。また、流通でのPRについては単発でなく継続して実施していく。さらにその基本となる牛飼いは家庭円満の中から生れてくるといった貴重なご意見、体験談であったと思います。

本日はどうも有り難うございました。



# 褐毛和種去勢牛の肥育過程における 枝肉構成及び肉質の変化

## 枝肉構成等からみた仕上げ時期の目安

熊本県畜産試験場 住尾善彦\*

堀 英臣・広松重弘（\*現畜産課）

近年、去勢牛肥育においては高級牛肉生産を目指すあまり、濃厚飼料多給による仕上げ体重の大型化・肥育期間の長期化の傾向にある。これに伴い、飼料効率の低下、疾病の多発、厚脂等が問題となり、同時に褐毛和種としての品種特性を殺す結果ともなっている。

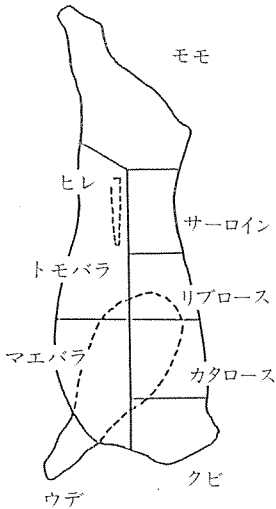
これらの問題解決には、牛体の成長生理に即した合理的な仕上げ時期の解明が不可欠である。このためには、①肥育過程における枝肉を構成する筋肉、骨及び脂肪の各組織の成長の様相並びに枝肉構成の変化②肥育過程における肉質の変化③肉質と枝肉構成との関係の3つについて知る必要がある。

そこで、当场においてこれらの情報を得るために去勢牛17頭について調査し若干の知見を得たので、その概要を紹介する。肥育農家の方々並びに関係者諸兄の参考になれば幸いである。

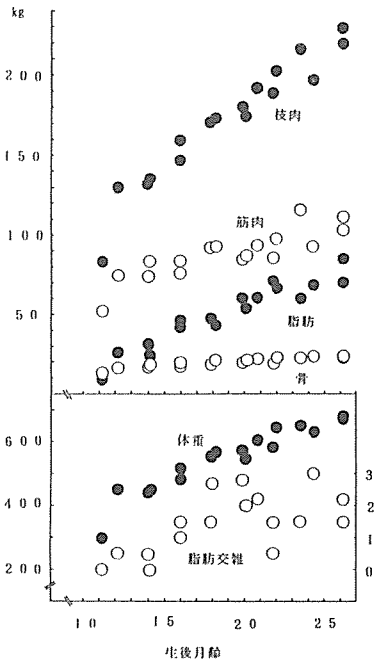
### 1. 試験方法

褐毛和種去勢牛17頭(間接検定実施要領に準じて飼養したもの)を生後11.2ヵ月齢時(以後生後を略)から26.2ヵ月齢時にかけてと殺し、左半丸について、と殺24～48時間後に第6～7肋骨間で分離して肉質の調査を行った。その後直ちにクビ、ウデ、カタロース、マエバラ、リブロース、サーロイン、トモバラ、ヒレ、モモの9つの部分肉(第1図)に分け、それぞれを筋肉、骨、脂肪及びその他に分離した。

なお、第7胸椎部の胸最長筋(サーロインのロース芯)の一部を凍結乾燥後、



第1図 左半丸の部分肉への解体



第2図 肥育に伴う体重・枝肉重量・脂肪交雑及び枝肉の筋肉・骨・脂肪の各組織重量の変化

水分、粗蛋白質及び粗脂肪について常法により測定した。

## 2. 試験結果の概要

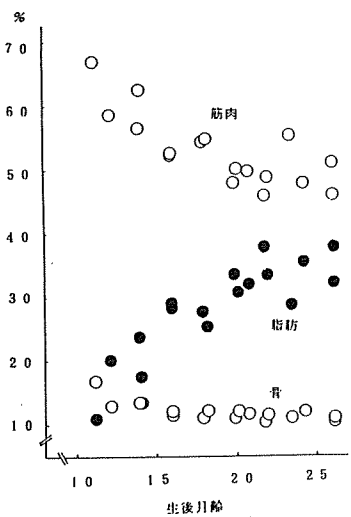
### (1) 筋肉、骨及び脂肪の各組織の成長の様相並びに枝肉構成の変化

第2図は、肥育に伴う体重、枝肉重並びに枝肉中の筋肉、骨及び脂肪の各組織の成長の様相と脂肪交雑(第6-7肋骨間)の推移を示したものである。本論に入る前に供試牛の発育について触れると、第1図の体重の推移で見られるとおり濃厚飼料多給によるものとそれぞれの月齢において多少の大小はあるものの遜色なかった。それでは、まず筋肉の成長について述べると、14ヵ月齢時にかけて急速に増加し、18ヵ月齢時まではかなりの速度で増加した。しかし、その後の成長はゆるやかとなった。骨は、22ヵ月齢時程度まで微増し、その後ほとんど一定となった。一方、脂肪については、22ヵ月齢時まで直線的に増加し、その速度は14ヵ月齢時以降筋肉より大きく、とくに18ヵ月齢時以降その差は顕著となった。

第3図は、肥育に伴う枝肉構成(筋肉、骨及び脂肪の各組織の枝肉に対する相対割合)の変化を示したものである。筋肉は、20ヵ月齢時程度まで直線的に減少しその後はバラツキが大きくなるものの平均すると49%程度の割合となった。一方、

これと対照的に脂肪は20ヵ月齢時まで急速に増加し、その後バラツキは大きくなるものの平均すると33~34%程度の割合となった。骨については、16ヵ月齢時まで急速に減少し、その後微減して22ヵ月齢時以降は11%程度でほぼ一定となった。

このように、肥育に伴い筋肉、骨、脂肪等の組織がそれぞれ異なった様式で成長し、これらの総合されたものが枝肉の成長として表わされる。この中で、とりわけ脂肪の成長速度が大きく、枝肉の成長を特徴づけている。枝肉構成の変化についても、主として脂肪の成長に伴う割合の増加とそれに伴う筋肉の割合の減少

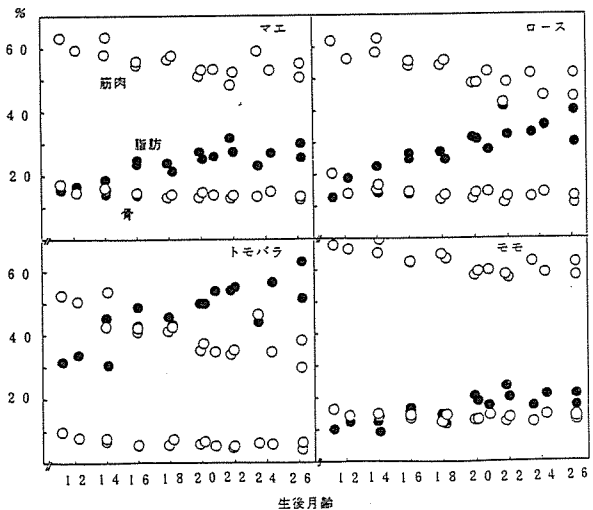


第3図 肥育に伴う枝肉構成の変化

によって生じることが明らかであり、やはり脂肪が大きな役割を演じている。

次に、枝肉の主な部位における各組織の構成割合の推移を第4図に示した。

なお、マエはクビ、ウデ、カタロース及びマエバラの合計、ロース及びサーロインの合計である。マエは、枝肉全体と同様な傾向を示し(第3図を参照)、ロースは22ヵ月齢時程度まで筋肉割合の減少、脂肪割合の増加が認められた。トモバラは



第4図 肥育に伴う各部分肉における筋肉・骨・脂肪の構成割合の変化

ややバラツキは大きい。調査月齢内では筋肉及び脂肪の割合はそれぞれ直線的に減少、増加した。モモについては、20ヵ月齢時までに構成割合の変化はほぼ終了した。以上から、枝肉の各部位における構成割合の変化は、部位により遅速はあるもののトモバラを除きほぼ22ヵ月齢時には終了するようである。トモバラについては、脂肪の割合が増加するばかりで、肥育期間が長くなるほど脂肪の蓄積が進んでいくと考えられる（マエバラについては検討していないが、同様の傾向にあると思われる）。

第1表 肉質及び胸最長筋の成分の変化

個体番号	生後月齢	体 重	肉 質 <sup>1)</sup>				胸最長筋 <sup>2)</sup> の成分(%)			枝肉中の脂肪の占める割合
			脂肪交雑	肉の色沢	肉のきめ(しまり)	脂肪の色・質	水 分	粗蛋白質	粗 脂 肪	
1	11.2	298 kg	0	等外	等外	—	75.42	18.18	1.77	10.9%
2	12.2	450	0.5	並	中	極上	71.59	20.87	5.26	20.1
3	14.0	441	0.5	並—	並—	—	72.14	21.77	4.96	23.7
4	14.1	447	0	並—	並—	—	73.39	21.90	3.43	17.5
5	16.0	481	1.0	並	中+	極上	71.30	21.47	6.53	28.5
6	16.0	517	1.5	中	中	上	71.01	21.71	6.60	29.1
7	17.9	555	1.5	上	上—	上	68.20	18.31	9.07	27.7
8	18.2	567	2.7	上	上	極上	64.90	19.86	14.44	25.3
9	19.9	573	2.8	上	上+	極上	66.54	20.71	10.94	33.6
10	20.1	546	2.0	上—	上—	極上	65.33	—	13.42	30.8
11	21.8	582	1.5	上+	上	極上	68.83	21.47	8.71	37.8
12	22.0	645	0.5	中	中	極上	68.17	21.33	9.26	33.4
24-1 <sup>3)</sup>	22.9	579.3	2.2	上	上	極上	65.27	19.87	13.48	—
13	23.5	648.7	1.5	上—	中+	上	67.83	20.89	10.83	28.7
24-2 <sup>3)</sup>	25.1	619.3	2.0	上—	上—	極上	64.92	22.50	12.11	—
26-1 <sup>3)</sup>	25.6	676	2.0	上	中+	極上	67.51	20.29	10.74	—
14	26.2	679.3	1.5	上—	上	極上	66.17	17.71	11.61	32.2
15	26.2	676	2.2	上+	上—	極上	68.19	19.89	11.27	37.8
26-2 <sup>3)</sup>	26.9	636.5	3.5	極上—	上+	極上	62.84	18.83	16.97	—

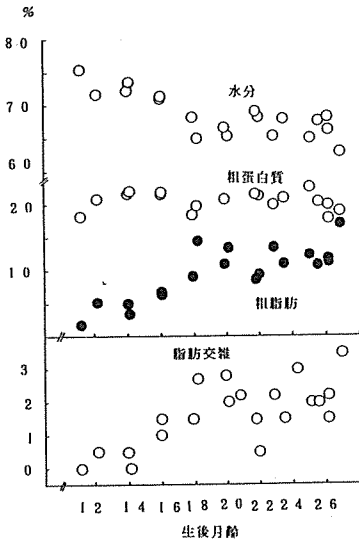
注1) 第6—7肋骨間で間接検定調査牛の評価法に基づき判定。

2) 第7胸椎部の胸最長筋。

3) 枝肉構成を調査せず、筋肉の成分を測定したもの。

## (2)肥育に伴う肉質の変化

肥育に伴う肉質の変化を間接検定調査牛の評価法に基づく評価及び第7胸椎部の胸最長筋(ロース芯)の成分により検討したものを第1表及び第5図に示した。肉質の各項目の評価は、肥育に伴い向上していくが、20ヵ月齢時程度以降はあまり向上しなかった。すなわち、脂肪交雑は12-14ヵ月齢時頃から認められ始め、20ヵ月齢程度まで直線的に増加するが、その後は個体によりバラツキが大きく、平均するとほぼ横ばいとなった。肉の色沢は、18ヵ月齢時以降ほぼ「上」以上の評価となり、肉のきめ・しまりについても18ヵ月齢時以降「中」の評価が散見されたものの「上」の評価が大部分を占めた。



第5図 胸最長筋の成分及び脂肪交雑の変化

次に、胸最長筋の成分の変化についてみると、粗蛋白質は18-22%程度であり特徴的な傾向はないようであった。水分及び粗脂肪については、20ヵ月齢時まで水分は直線的に減少、これと対照的に粗脂肪は増加し、その後は水分63-68% (平均66%程度)、粗脂肪9-17% (平均12%程度) とややバラツキがあるものの平均するとほぼ横ばいとなった。また、粗脂肪は脂肪交雑とほぼ対応した推移を示したが、20ヵ月齢時以降脂肪交雑よりバラツキは小さくなった。

以上の結果から、肥育に伴い筋肉内の水分が脂肪に置き換えられ肉質が改善されていくことが明らかとなったが、肉質の大きな向上は20ヵ月齢時程度までしか望めないと思われる。20ヵ月齢時以降は個体によるバラツキが大きく、個体のもつ遺伝的能力が大きく影響していると考えられる。

## (3)枝肉構成と肉質

肥育に伴う枝肉構成の変化(枝肉の各組織の成長様相)及び肉質の変化について検討してきたが、枝肉の評価は肉質によるところが大きいので両者の関係を明らかにすることは重要である。(1)でも述べたように肥育に伴う枝肉構成の変



化を大きく特徴づけるのは脂肪であるので、第6図に枝肉中の脂肪の相対割合（枝肉構成の変化の指標）と肉質との関係を示した。

脂肪交雑は、脂肪の相対割合が20%程度から出現し始め、30%程度まで直線的に増加した。その後は、やや増加傾向にあるものの個体のバラツキが大きくなった。肉の色沢及び肉のきめ・しまりについては、脂肪の相対割合が25-30%を境目として大きく評価が向上し、「上」以上の評価が大部分を占めるようになった。このように、肉質は枝肉中の脂肪の相対割合30%程度までは肥育に伴い向上するが、それ以降は個体によりかなり差が生じるものと思われる。このことは、肉質が肥育状態の良否を基礎にしながらも、個体のもつ遺伝的能力に大きく影響されることを示唆している。

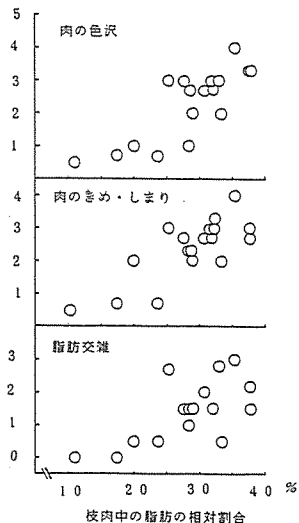
### 3. 試験結果からみた仕上げ時期の目安

肥育に伴う①枝肉中の各組織の成長様相並びに枝肉構成の変化、②肉質の変化及び③その両者の関係を検討してきたが、これらの結果から仕上げ時期の目安について述べてみたい。

まず、①からは、各組織の成長が落ち着き、枝肉構成が安定してくる20~22ヵ月齢時が目安になると思われる。これ以降は、枝肉の成長もゆるやかとなるが成長の大部分は脂肪の成長によるものと考えられ、部位別の構成の変化で検討したように、とくにバラ部への脂肪の蓄積が進むものと推察される。

次に②からは、20ヵ月齢時程度まで肉質が確実に向上し、それ以降個体によるバラツキが大きくなり、遺伝的能力の優れたものしか向上が望めないと推察されるので、この時期が目安になると思われる。

最後に③からについては、枝肉中の脂肪の相対割合が30%程度まで肉質が向上していき、その後は個体によりバラツキが大きくなるので、この30%が目安



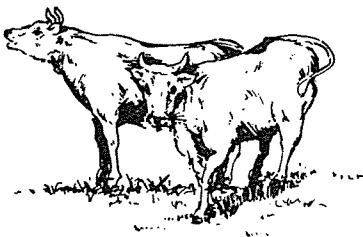
第6図 枝肉中の脂肪の相対割合と肉質との関係

肉のきめ・しまりは「上+」3.3、「上-」2.7、「中+」2.3、「中」2、「中-」1.7、「並+」1.3、「並」1、「並-」0.7、「等外」0.5として評価。

になると思われる。この時点の生後月齢を第3図から推定すると20ヵ月齢時頃（生体重では580kg程度）となる。

以上のことをまとめると、いずれの目安も生後月齢で見ると20-22ヵ月齢となるので、この時期が仕上げの大きな目安になると思われる。しかしながら、20ヵ月齢時以降枝肉構成等のバラツキが大きいことから、個体により肥育の進行状態に遅速のあることが考えられ、この点は十分留意しなければならない。すなわち、20-22ヵ月齢時にすべてを出荷するのではなく、この時点で肥育状態が十分であると考えられるものから順次出荷していくべきであると思う。しかし、肥育状態が十分でないといって20-22ヵ月齢時以降あまり長く肥育を続けることは、肉質の向上もあまり望めず、無駄な脂肪を増加させ、飼料効率も低下させ、あか牛の特性を殺す結果ともなるので、せいぜい24ヵ月齢時程度までに留めるべきであろう。

最後に、試験遂行にあたり助言・指導を頂いた九州農業試験場八木研究室長（現福井畜試場長）並びに職員各位に、また、と殺・解体にあたり多大の労をわずらわせた熊本市農業協同組合小田係長並びに職員各位に対し深く感謝する。



# ヨーロッパ諸国を旅して

松川 昭 義（本会事務局長）

## はじめに

私は昨年8月24日から9月7日までの約2週間、デンマーク、西ドイツ、オランダ、フランスなどヨーロッパ諸国を旅する機会があった。今回の旅行（といっても私にとっては初めての海外旅行）は、全国酪農協会主催の「第19回ヨーロッパ酪農・畜産・農業事情視察団」の一員として参加したものである。

旅行のタイトルからも察しがつくように、メインとなるのは酪農事情の視察であることに間違いない。そのために、参加者の中身も酪農関係の人が多く、北海道から鹿児島にいたる全国各地から参加した総勢65名である。若い後継者もいれば酪農家の奥さん、農協長さんに技術指導員、県の試験場長さんもあれば、ある町の町会議員さんといった多彩な顔ぶれである。

ここでお断りしておかねばならないが、こういう酪農視察団の一員に、何故私のごとき肉用牛関係の者が飛び込んで参加したかといえば、「ヨーロッパでは乳牛と肉牛の区別がわが国のようにはっきりしてなく、もっぱら兼用種が多いこと」、また「EC並みの価格をめざした牛肉生産体系を学ぶにはよいチャンスであるこ

と」そのためには「自分の目で確かめることが一番」といったような、堀会長はじめ多くの方々の強い勧めがあったからである。

いざ参加するとなると、「何んでも見てやれ、聞いてやれ」と意欲満々、物珍らしさと好奇心に胸おどらせて出かけたものの現地での2週間はあっという間に終わってしまった。

以下ご紹介するものは、「現地報告」という大げさなものでなく、見たこと聞いたことを想い出しながらどった、いわば「見聞記」である。なかには畜産、農業事情という枠をはずれた部分もあるけれどもご承願したい。さらに現地では、終始集団行動であって聞き間違いなども多く含まれているかもしれないので念のためお断りしておく。

（図1は旅行経路を示す）。

## 畜産王国デンマーク

私どもの最初の訪問国はデンマークである。日本の畜産、ことに酪農、養豚が今日のように発達した陰にはこの国の大きな技術指導があったことを忘れてはならない。デンマークは畜産では先進国であり、畜産王国なのである。

デンマークは緯度的には樺太よりさら

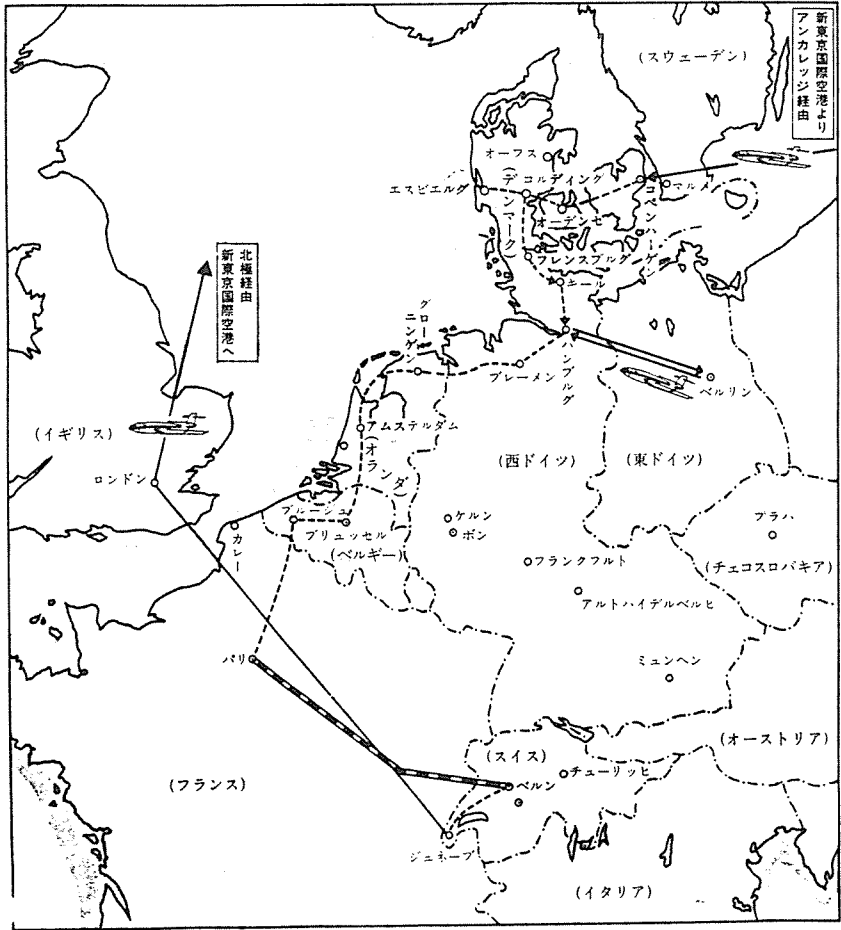


図1 ヨーロッパ諸国と今回の旅行の径路

に北に位置している。しかし気候は、他のヨーロッパ諸国と同様にさほど寒くはなく、夏は北海道の釧路地方、冬は秋田県地方と同程度とのことである。

国土面積4万3000km<sup>2</sup>はほぼ九州と同じ広さである。(ただし、ほかにグリーンランドもこの国の所有である)。大小500余りの島々からなり、山らしいものは全

くない。高い所でも標高150m程度で、平均30mのなだらかな起伏を帯びた地形である。その全土の約4分の3が農地であるから、畑や放牧場は見わたすかぎり広大な感じを受ける。

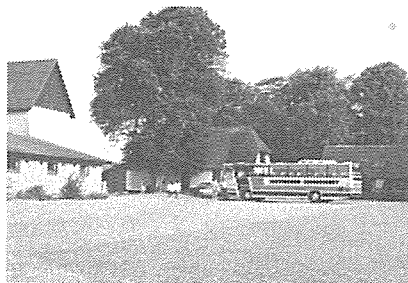
人口は約500万人、うち農林漁業従事者が6.7%である。その少い農業者で全人口の3倍分の食糧生産を行なっているとい

う。余った農産物は主にEC諸国やソ連に輸出して外貨獲得に寄与しているとのことであるが、貿易収支は赤字つづきという。主な農産物は豚肉、乳製品、穀類（大麦、ライ麦等）、ビートなどである。牛乳は現在生産過剰となってEC全体で生産調整を実施している。豚肉はわが国にも輸出しており、数年前に口蹄疫の流行から一時輸入禁止の措置が取られたことは記憶に新しい。

#### J・E・モルテンセン農場をたずねて：

私ども一行は2台の大型バスで各地を訪ねることになったが、最初の訪問先は、ユトランド半島の中央東側にあるバイレという町から約15km離れたフェニックスボルグ地方のモルテンセン農場である。

この農場は110haの農地に牛130頭（搾乳牛67頭、雄子牛の肥育牛34頭、ほかに育成牛）肉豚2500頭（年間出荷頭数）、ほかに大麦、小麦、ビートなどを栽培する複合経営農家である。



写1 モルテンセン農場にて、左が牛舎、中央農機具舎、右側が住居。

農業従事者は主人と息子、それに雇用労働者2名、他に実習生1名の計5名である。（この国では女性はほとんど農作業をやらないのが普通である）。主人が酪農、息子が養豚を担当している。主人の

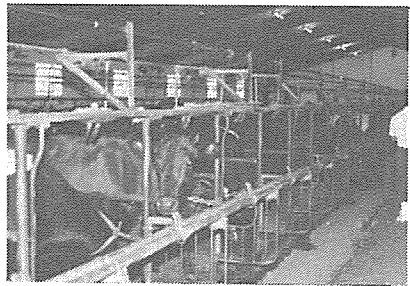


写真2 牛舎内、デンマーク赤牛とフリージャンが一緒にけい留されている。牛も畜舎もあまり上等とは思われなかった。

話しでは「自分のところのごく普通の農家」と謙そんしたが、私どもに同行し説明してくれた指導員（コンサレットという農業普及員のような職種の人）は、「モルテンセン氏の農場は生産性の高い優秀な農家」と評していた。

飼養されている牛はデンマーク赤牛とフリージャンの半々で、乳量も高いという。搾乳牛は特別優秀なもの以外平均3産取ったのち肉用として組合に出荷するという。比較的若いうちに廃用するのは肉用としての価値が落ちないうちのこと。雌子牛もここでは全部育成して搾乳用として補充される。雄子牛はタマ付のまま400kg程度になるまで肥育（肥育という言葉は適当でないかもしれない）し、同様に組合に出荷する。ちなみに価格は15万円程度とのこと。またこの地方の雄子牛の価格（生後10日目位）は3万円程度であると話していた。

私どもはモルテンセン農場で1人の日本人青年の出迎えをうけた。彼は国際農友会の派遣実習生としてこの近くの養豚農場で働いているとのこと。日本から

視察団が来るというので指導員が呼んでいたものである。熊本見天草出身で泉龍治君といていた。遠く離れた異国の地で同郷の青年と出会った嬉しさとなつかしきでいっぱいになり、いろいろと話を聞くことができた。

彼によれば、2年ほど前の口蹄疫の流行から養豚農家は特に防疫面に力を入れるようになって、彼が働らく農場でも無菌豚による管理体制をとっているとのことである。日本で聞くSPF豚とは多少違うらしく、分娩方法は普通であるという。ただ外部とは完全に遮断された畜舎で管理されており、もちろん部外者は一切はいれない。この農場から繁殖豚を共進会に出品しても再び持ち帰ることはしないで処分するといったぐあいである。また、現地での豚肉価格は最近好況だそうで、枝肉キロ当り15.3クローネ(約380円)しているとのことである。この価格ならかなりの利益があると農家の主人も喜んでると話していた。

#### デンマークにおける国民生活と文化：

ヨーロッパでも特に北欧と呼ばれる国々は社会保障制度が発達していることはよく知られている。またその裏には高い税負担があることも忘れてはならないことである。デンマークでは、たとえば500万円の収入があれば60%は税金として納めなければならない。一般の物品税も高く、なかでも酒類やタバコなどぜいたく品はさらに税率が高いという。(たとえばタバコ1箱約600用)。自動車などはなかなか手には入り難いとみえて、走っているのは主に中古車のようであった。市民の足としてはもっぱら自転車で、古い

も若きもよく自転車を乗りまわしていた。そしてどんなに古くなった自転車でも大事にしており、きちんとカギをかけて並べてあるのは見た目にも気がいい。経済大国とはいえ、未成年の若者でも数百万もする高級車を、せまい道路もおかまいなしに乗り回わしている日本とはあまりにも対照的であった。しかし生活水準はさほど低くなく、国民1人当りの所得は日本よりむしろ高いとのことである。町で働らく人も農民も日曜日には必ず休むし、店も土曜の昼から日曜日は完全に閉ってしまう。日本のようにあまりこせこせしないで、ゆったりした文化生活を楽しんでいる感じである。日曜日には家族そろって教会にお参りしたり、レジャーを楽しんだりするのが一般的な過ごし方なのである。

高い福祉に高負担のお国柄、貧富の差は少ないが、反面若者の中になまけて仕事をしない者がふえているといった悩みもあるという。そこで現在、福祉のふくらみに対する見直し論もでているとのことである。

義務教育は7才から15才までの初等教育があり、その後は中等学校及び専門学校、さらには大学へと進むことができる。しかし多くは専門学校までで、大学に進学する者は全体の1%程度とのこと。もちろん公立の学校は無料である。

各家庭の子供は義務教育まで親の世話になって育てられるが、15才～20才までの間に親元を離れて独立するのが一般的とのことである。自分で仕事をさがし、アパートに住み、結婚相手も自分でみつけないといけない。20才以上にもなっ

て親と一緒に暮らしているようではこの国では変に思われるそうである。独立心がなければ1人前の扱いをうけないという。

日本では今日、農業後継者不足が社会問題になっているが、デンマークでは農家を子供が継ぐという習慣はないという。親の財産を子供が譲り受ける、いわゆる相続制度は存在しないとのことである。実際の子であろうとも農業を希望すれば親の土地や建物、家畜にいたるまで全部買わなければならないことになっている。(その場合、子供は銀行から借金して買うのが普通であるという)。子供の立場からすれば、親の農場であろうとも他人のものであろうとも金を出して買わなければならないので、必ずしも親の農場を継ぐことはないという。

さきにも紹介したとおり、農家でも日曜日は休業である。雨が降って干草などを取納しなければならない時でも関係なしに休む。(ただし、飼料給与とか搾乳などは当番をきめて実施する)。また、農家のご婦人は農作業をやらないのが普通である。勤めに出たり、家事やせいぜい帳簿を付けたりするといった程度である。そのために、家の内部や庭などはよく手入れがゆきとどいて実にきれいである。モンテルセンさん宅では部屋の中まで見せてもらったが、いたるところに花や絵を飾り、じゅうたんを敷きつめてあつてどの部屋も応接間のようなものである。そのわりには派手、豪華さがないのが気持ちいい。家の周囲は花が植えられ、芝生の手入れもよく「これが農家？」と疑がいたくなるような見事なものであった。私の

目にはこの農家の部屋や庭のきれいさが今もって強く焼きついている。

私どもはデンマークに3日間滞在し、前記の農家のほかに、乳質検査器メーカーのフォス社及びパイプラインミルクカーのストロングハンセン社を訪問し、デンマーク酪農の実情や乳質検査のしくみミルクカーの製作工程など説明を受けたり見学したが酪農とは縁遠い私にとっては興味をわかすほどのものではなかった。また観光地としては、コペンハーゲン市内の人魚の像など名所旧跡を見てまわりさらには移動の途中フィン島にあるアンテルセン記念館に立ち寄ったことなどよい思い出になった。さらに付け加えて印象的だったことをあげれば、市街や農村の家々はほとんど赤レンガ造りであり、これが周囲の木々や芝生の緑によくマッチして実に美しく私どもの目を終始楽しませてくれたことであった。

## ドイツ 戦後の繁栄と東西対立

私どもは今回の旅行で、当初の計画では西ドイツ北部の農村地帯と東ドイツ国内の協同組合方式による大型酪農経営を見学することになっていた。ところが残念なことに、出発間際になって東ドイツ側から見学を断わる連絡が入り、後者の訪問は急きょ中止となった。なお東ベルリン市内の見学は許された。(ベルリン市内の訪問のことについては後で触れることにする)。

西ドイツは国土面積24万8000km<sup>2</sup>、総人口は6100万人。面積で日本の3分の2、人口は約半分である。地形的には北部低

地、中部山地及び南部の山岳地に大別されるが、必ずしも農業に適した土地ではない。しかし他の地域から流入する人口増加に対し、食糧増産に大きな努力が払われてきた。主なる農産物は、乳製品、小麦、大麦、カラス麦、ジャガイモなどである。

#### アングラ種とその改良団体：

西ドイツ北部にあるシュレッシヒ・ホルスタイン州。(この地方の在来の黒白斑牛がアメリカに渡り改良されてホルスタイン・フリージャン種ができたときされている)。この州の東側に軍港で名高いキールの町がある。そこから約60kmほどのGrangerschildという村にピータセン農場を訪ねた。この農場の細い紹介は割愛することにしたいが、私はここで飼われているアングラ種という牛に興味をひかれた。



写真3 アングラ種の放牧場、人なっこい性質で体積に富み、飼いやすい牛のように見えた。角が無いのは除角によるため。

この牛は、一見日本短角種を思わせる濃赤褐色の乳用種であるが、体積に富み、肉付きもあって肉用的価値の高い牛のようでもあった。特におとなしそうな性質は、どこかあか牛と共通する特性をそな

えているようで親近感をおぼえた。農場主も指導員(助言者)も口をそろえて「乳脂率とタンパク率の高い牛」「種付け成績もよい」そして「少い土地から最高の生産をあげる牛」などと特性をあげて紹介するとともに「ドイツ種の中では最も優れた牛である」と絶讃、日本にも導入してはどうかと宣伝にも余念が無い。

私どもは近くにあるアンゲルン・ホール(家畜市場を兼ねた記念館)に案内され、この牛の改良団体であるアングラ協会について説明を受けた。

アングラ協会は、約1000戸の農家が会員となって組織され、キールに本部があるという。主な業務は次の4つの部門に分かれており、さしずめ登録協会と農協を合わせたような性格である。

#### ①登録部門

現在約3万頭の牛が登録され、キールの本部でコンピュータによって処理されているという。しかし残念ながら詳しいことを聞いたり、現場を見せてもらうことはできなかった。

#### ②人工授精部門

#### ③販売部門

月に1回家畜市場のホールでセリ市が開かれ、30~40頭(年間約300頭)の未經産牛がオランダに売られているという。ちなみに未經産牛の価格(24ヵ月齢、500kg)は20万円程度という。さらに指導員が言うには、「日本はカナダあたりから何千万円もかけて種雄牛を購入しているそうだが、アングラ種ならその1頭分で400頭は買えるよ」と皮肉られた。

#### ④種雄牛の管理部門



優秀な雄牛を育成して、年間200頭を販売する。る。

さらに同協会はアングラー種の改良目標として、

乳	量	6000kg	
乳	脂	率	5%
タン	パク	率	4%
体	重	600kg	

を掲げている。すなわち、(脂肪分+タンパク分)で540kgを生産することである。この生産体系が最も効率のよい方法であって、このことは各種の試験結果からも証明されているという。

#### ベルリン—緊張ただよう東西の壁：

ベルリンを語るには戦後の歴史に触れておかなければならないだろう。第二次大戦による敗戦の結果、ドイツは、連合国の取りきめに基づいて、4つの占領地域とベルリン特別地区に分割された。ベルリンは、周囲をソ連の占領地(現在の東ドイツ)に囲まれていたが、ドイツ最大の都市としてアメリカ、フランス、イギリス、ソ連の共同管理として、市内は4地区に区分された。その後ソ連は、これまでの共同管理体制を中止し、ベルリン市内に通じる陸上交通路を封鎖するに至った(1948年)。ここにベルリンは共産圏の真ただ中に浮ぶ陸の孤島になってしまったのである。しかし西側3国、特にアメリカの強い援助に支えられて自由都市ベルリンは復興と繁栄をつづけることになる。一方東側からは人口流出が相つぎ、これに対して1961年8月に壁が築かれて、ベルリンは完全に東西に分断されてしまった。今日においても、家族の離別逃亡事件といった幾多の悲劇を生む

結果になってしまった。

ベルリンは面積883km<sup>2</sup>、人口約320万人(うち西—480km<sup>2</sup>、199万人、東—403km<sup>2</sup>、121万人)。東西を分断する壁は延々45kmにわたって走り、現在は自由に往来はできない。しかし西側から東側への出入りは許可されている。



写真4 チェックポイント・チャーリの近くの壁の前にて。左側は西ベルリン、壁の向こうの建物は東ベルリン。このような壁が延々45kmにわたって走って東西を分断している。

前にも述べた通り、私どもは当初東ドイツ内の組合経営農場を見学する予定となっていたが、それが取り止めになったために東ベルリン市内の見学に変更になった。

ベルリン訪問は日帰りであって、前日の宿泊地のハンブルグからジェット機で1時間足らずのうちに西ベルリン空港に到着する。西側から東ベルリンに入るには壁のあいたチェックポイント・チャーリという検問を通らなければならない。この地点は東西両サイドでものもしい警備体制がとられており、最も緊張感をただよわせている所である。通訳の話しによれば、東側のビルの窓から望遠鏡で

いつも監視されているのでカメラの撮影はしないようにと注意される。私もバスでこの地点を通過し東側に入るとすぐにチェックを受けた。まず全員バスを降りて外に整列する。男の検問官がカラになったバスの中や底にいたるまで入念に見て廻る。一方では目つきのするどい

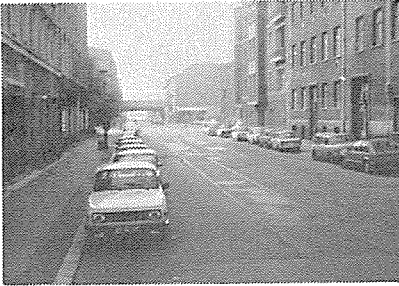


写真5 東ベルリン市内、コンクリートの古びた建物が多く街路樹などの緑が少ない。殺風景な感じである。

女性の検問官が、顔とパスポートを1人1人つき合わせながら終ったものをバスに乗せていく。さしずめ戦争映画の捕虜の扱いをされている気がして気持のいいものではなかった。市内の案内には1人の女性ガイドがバスに乗り込んで説明してくれた。

バスは東ベルリン市内の目抜き通りや、中央官庁の立ちならぶ中心街、名所を廻わっていく。「東ベルリンは共産圏諸国の中でも最も繁栄している都市である」とガイドは説明する。「これは社会主義国家の勝利の賜である、国民生活も豊かである…」といいことばかり続けるが、どうも迫力を感じない。私の見た率直な感じでは、やたらと古びた建物が目につき、木々の緑が非常に少ない。走ってい

る車も中古車ばかりのようである。そして市内の数箇所には40年前の戦争のキズ跡をそのまま残した建物もある。(記念に残してあるというより復旧ができていないような様子であったが詳しくはわからない)。バスのガイドはわれわれに絵ハガキやコインなどを販売してくれたが、絵ハガキに見られるような所以外はなんとなくさびれた街といった感じであった。ただ、ソ連兵を祭った「無名戦士の墓地」は緑豊かな森林に囲まれていて、さすがといった印象を受けた。

私も約2時間ほど東ベルリン市内を見学し再び西ベルリンに戻ったが、出国の際の検問が入国以上に嚴重であったことはいうまでもない。

西ベルリンは今日繁栄をきわめ近代都市として生れ変わっている。数年前に壁を乗り越えようとして銃殺された地点では、今なお続く悲惨な東西対立に一同涙をさそわれた。壁ひとつしか離れてなく、しかも同一民族による2つの国が、自由主義、社会主義という立場の違いによって対立しなければならない国情と悲しさを身近に見ながら、現在の日本という国の有難さを思いつつ私も一行はベルリンをあとにした。

(つづく)

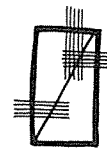
# 会 報

## ○ 東日本ブロックあか牛研究会

昭和59年度東日本ブロックあか牛研究会は、9月28・29日の2日間宮城県仙台市及び黒川郡大郷町において開催した。今回は東北大学の水間教授、東北農試の滝本室長を特別講師として迎え、また北海道、秋田、静岡の各県に地元宮城県から多数の関係者が出席した。宮城県でブロック研究会が開かれるのは5年ぶりであって、地元では最近あか牛に対する熱意が高まってきているという。

第1日目は仙台市食肉卸市場内において開会、地元宮城県星畜産課長、遠藤食肉市場社長の歓迎のあいさつの後、枝肉研究会に移った。10頭の研究牛を中心に枝肉格付の指導を受けたり、肥育の改善点などに議論がかわされていた。また登録協議会では、本部事務局より①登録関係資料の説明、②現場検定推進策③高等登録資格条件の改正試案などが示され、これについて活発な質疑応答が行われた。さらに水間、滝本両講師よりあか牛の今後の対応策などについて助言をいただいた。

第2日目は、大郷町の経済連黒川家畜市場において実牛審査研究会、さらには畜産公社大郷牧場の見学などで全日程を終了した。



## ○ 登録規程(高等登録資格条件)の改正(試案)

次に示す改正試案は、先の東日本ブロック会議において提案し検討したものである。西日本関係の会議がまだ済んでいないために十分な検討はなされていないが、一応参考のなめに掲載することにした。

現 行	改 正 案
<p>(高等登録)</p> <p>第4条 高等登録は、登録牛であつて、次の条件のすべてを備えたものについて行う。</p> <p>(1) 父母、祖父母ともに登録牛であるもの</p> <p>(2) 本牛の産子及び父母、祖父母の産子中に別に定めるところによる遺伝的異常形質が出現していないもの</p> <p>(3) 雌にあっては、その産子に特級登録牛又は1級登録牛を2頭以上生産し、かつ、各産後12ヵ月にわたって不受胎でなく、その産歴の中に2回以上の流産又は死産がないもの</p> <p>(4) 雄にあっては、その産子に特級登録牛又は1級登録牛を30頭以上生産し、別に定めるところによる産肉能力検定の成績が良好なもの</p> <p>(5) 高等登録審査の際に、別表1の審査標準により審査の結果、80点以上を得点したもの</p>	<p>(高等登録)</p> <p>第4条 同文</p> <p>(1) 同左</p> <p>(2) <u>繁殖成績良好で、本牛の産子及び父母、祖父母の産子中に別に定めるところによる遺伝的異常形質が出現していないもの</u></p> <p>(3) 雌にあっては、その産子に<u>81点以上の登録牛を2頭以上生産しているもの。ただし、次のいずれかに該当するものは、81点以上の登録牛1頭以上をもって本項の条件をみたしたものとす</u></p> <p><u>ア 特級登録牛</u></p> <p><u>イ 高等登録牛の間、特級登録牛の間及びそれらの相互の間に生れたもの</u></p> <p><u>ウ 母、祖母ともに高等登録牛</u></p> <p><u>エ その産子の中に産肉性のすぐれたものを1頭以上生産しているも</u></p>

の

- (4) 雄にあっては、その産子に85点以上の登録牛を20頭以上生産し、別に定めるところによる産肉能力検定成績が良好なもの
- (5) 高等登録審査の際に、別表1の審査標準により審査の結果、雌では81点以上、雄では85点以上を得点したもの

### ○ 審査細則の追加（試案）

○ 高等登録資格条項中の「繁殖成績良好」の解釈は次の通りとする。

（雌の場合）

1. 生後30ヵ月以内に初産を分娩していること。ただし、生後7年以内に5産または生後10年以内に7産したものはこの条件をみたすものとする。
2. 2回以上の流産または死産がないもの。
3. 連産していること。（平均分娩間隔14ヵ月以内とし、各産次と初産後の年数は下記の通り）。

産次	初産分娩後の年数
2産	1年2ヵ月以内
3産	2年4ヵ月 "
4産	3年6ヵ月 "
5産	4年8ヵ月 "
6産	5年10ヵ月 "
7産	7年 "
8産	8年2ヵ月 "
9産	9年4ヵ月 "
10産	10年6ヵ月 "

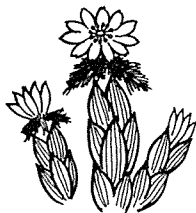
○ 高等登録資格条項中の(3)エの「その産子の中に産肉性のすぐれたもの…」  
とは次のものをいう。

別に定めるところの「褐毛和牛産肉性評価基準」により審査の結果、81点以上を得点したもの

## ○ 受精卵移植による子牛生産状況

あか牛において、受精卵移植でこれまで生産された子牛頭数は20頭(秋田1、熊本19)である。この中には凍結受精卵移植により、生産されたものも含まれている。すでにその内5頭は、本会において子牛登記している。

ちなみに本会において登録登記するためには、血液型により親子関係確認が必要条件になっている。また、牛の名号には、末尾にE、Tという略号をつけて一般牛と区別することになっている。



## ○ 高等登録審査成績

本誌「第52号」で公表以後、高等登録審査に合格したものは次の通りである。

高等登録番	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高1935	第二ほうげつ	82.4	重宝(高40)	めいげつ(1級37296)	熊本県阿蘇郡一の宮町宿利大五
高1936	しげさくら	84.3	重波(高48)	さくら(2級熊10911)	" " 阿蘇町市原弘
高1937	ゆり	83.1	重波(高48)	ゆりひめ(1級22259)	" " " 西村勇誠
高1938	まる	82.1	龍勝(1級430)	はるまる(1級18341)	" " " 西村友次
高1939	第三きよこ	84.0	重宝(高40)	きよこ(高558)	" " " 平田清光
高1940	第三みのる	84.4	第二重川(高53)	みのる(1級18822)	" " " 岩本末成
高1941	しげさかえ	83.3	第二重川(高53)	まるさかえ(1級35853)	" " " 橋本則雄
高1942	第三さかえ	81.1	重宝(高40)	第一さかえ(1級22342)	" " " 一の宮町吉岡邦英
高1943	なみたま	82.6	重宝(高40)	さかえ(高393)	" " " 高木徳一
高1944	えいこう	81.5	第二栄豊(1級254)	しげさかえ(1級23651)	" " 阿蘇町田中登
高1945	きくみ	80.3	球光(高26)	さかえ(2級熊18134)	" " " 西村勇誠
高1946	みつ	82.0	草南(1級220)	さつき(2級熊17767)	" " 波野村江良一郎
高1947	みつひかり	80.1	光富(1級30651)	きくひかり(1級30651)	" " 阿蘇町本田小一
高1948	第三ほうせい	82.7	蘇玉(1級347)	たから(1級22495)	" 菊池郡大津町府内義秋
高1949	第三きく	83.2	重福(高47)	きく(1級38160)	" 旭志村大塚文雄
高1950	ゆりさかえ	86.5	光花(1級487)	第三ゆり(1級22191)	" 七城町松岡勇次
高1951	第二やすかわ	83.2	重栄(1級346)	やすかわ(2級村256)	長崎県上県郡上県町阿比留秀和
高1952	ふじゆき	80.4	蘇月(高35)	ゆき(1級23317)	熊本県上益城郡益城町田中次男
高1953	はなしげ	82.6	重金(1級441)	はな(1級39412)	" 鹿本郡菊鹿町竹下駒夫
高1954	第三ともこ	81.0	国盛(高33)	ともこ(1級34902)	" " 植木町田中聡
高1955	とよつき	82.0	蘇明(高30)	とよしげ(1級38236)	" 阿蘇郡南小国町河津哲文

高等高録 番号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高1956	さ か え	85.1	蘇 竜 (高55)	は つ え (本 6887)	熊本県人吉市古仏頂町 宮原寅義
高1957	は な	81.5	球 宝 (1級416)	さ か え (1級 6311)	" " 下原田町 富元良徳
高1958	第 五 つるひめ	82.9	球 泉 (1級463)	つるひめ (高 1251)	" 球磨郡錦町 永山 収
高1959	さちひめ	83.0	蘇 殖 (高56)	はるはま (高 640)	" " " 出田健一
高1960	第 三 にしひめ	82.5	重 房 (1級398)	にしひめ (1級 6471)	" " " 吉田好
高1961	第二なつめ	84.6	球 泉 (1級463)	な つ め (高 1641)	" " " 上村 福永敏人
高1962	こうゆう	85.9	蘇 殖 (高56)	ひでこ (高 1165)	" " " 和泉等
高1963	ともこ	82.2	蘇 月 (高35)	みつはな (高 736)	" " " 中村みつえ
高1964	第 三 きくひめ	81.7	重 宝 (高40)	きくひめ (1級27565)	" " " 古堀学
高1965	はつひめ	81.8	第二球光 (高63)	ふくひめ (高 1713)	" " " 宮元義人
高1966	五 ひ め	80.7	蘇 殖 (高56)	はつひめ (高 412)	" " " 古賀一二
高1967	ま る	80.7	光 武 (高58)	しげはな (1級45047)	" " 兔田町 宮本清市
高1968	あ き	80.2	球 光 (高26)	さつき (1級29176)	" " " 野中強
高1969	みつふく	83.7	蘇 竜 (高55)	はなみつ (高 1246)	" " " 牧野敦
高1970	てるみ	83.7	松 房 (高60)	三ひめ (1級27262)	" " 多良木町 椎葉和夫
高1971	ふくひめ	87.0	蘇 殖 (高56)	みつまこ (1級20801)	" " " 矢立一正
高1972	きよひめ	80.6	蘇 月 (高35)	はるひめ (1級13419)	" " " 土肥秀信
高1973	みつひめ	85.5	蘇 殖 (高56)	ふくひめ (高 785)	" " " 山浦清
高1974	ますみ	83.7	蘇 月 (高35)	みそら (1級15021)	" " 水上村 中岳熊次
高1975	ふくひめ	83.9	蘇 月 (高35)	第二はな (高 1113)	" " 須恵村 恒松鶴男
高1976	しげはな	80.1	重 吉 (高25)	たつはな (1級 413)	" " " 恒松好右
高1977	み つ め	81.1	蘇 殖 (高56)	き く (1級29200)	" " " 坂口伊喜男
高1978	ゆ き	80.8	蘇 殖 (高56)	まつひめ (2級熊18219)	" " " "
高1979	ふくひめ	81.0	球 泉 (1級463)	た つ み (1級31944)	" " 深田村 吉松一郎
高1980	第 三 たまはる	85.2	重 波 (高48)	第二たまはる (高 1391)	" " 相良村 西田 亘



高等登録 番 号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高1981	は る	85.2	蘇 殖 (高56)	ひめみつ (1級 9742)	熊本県球磨郡球磨村 中山 安 美
高1982	ま ゆ み	85.7	球 泉 (1級463)	みどり (高 1360)	" " " "
高1983	ふ え る	84.5	蘇 殖 (高56)	ふ く (1級15194)	" " " 日 隠 富士男
高1984	ふ ゆ る	83.4	松 房 (高60)	さ つ き (高 1369)	" " 水上村 小 川 秋 一
高1985	しらゆり	83.9	白 岩 (高52)	ゆ り (高 953)	" " 西良木町 一 幸
高1986	第一すず	81.7	秋 光 (1級375)	す ず (高 1822)	" " 岡原村 林 田 明 義
高1987	つ き み	80.6	第四栄 (1級383)	さ か え (1級24231)	" 上益城郡矢部町 国 武 英 則
高1988	か お り	82.9	蘇 明 (高30)	み つ え (高 813)	" " " "
高1989	み ち こ	84.0	重 福 (高47)	ひさはる (1級27724)	" " " 木 戸 注連雄
高1990	第 二 りょうこ	82.9	蘇 旗 (1級458)	りょうこ (1級38914)	" " " 上 村 義 光
高1991	さかえまる	80.7	久 旗 (1級186)	さ か え (1級18063)	" " " "
高1992	きくまる	81.2	第三重川 (高61)	ま る (1級12624)	" 菊池市 平 山 清 隆
高1993	第四ひめ	82.1	重 玉 (高11)	第五ひめ (高 377)	" " 平 山 幸 広
高1994	第三さかえ	83.9	蘇 殖 (高56)	さ か え (高 1004)	" 菊池郡旭志村 芹 川 テル子
高1995	し げ こ	81.8	重 松 (1級514)	しげひめ (1級27932)	" 菊池市 宮 川 公 雄
高1996	し げ み	82.0	重 松 (1級514)	ふじなみ (1級26015)	" " 御 山 千 枝 子
高1997	みつひめ	86.7	光 武 (高58)	はつひめ (1級28254)	" " 御 山 千 枝 子
高1998	かつゆき	82.4	蘇 竜 (高55)	か つ は ま (1級17228)	" 上益城郡矢部町 小 野 久 仁 夫
高1999	さ か え	81.5	第四栄 (1級383)	ま つ (1級22589)	" " " 藤 川 良 治
高2000	第 四 しらふく	82.2	白 岩 (高52)	しらふく (高 671)	" 菊池郡大津町 古 庄 房 年
高2001	きよふじ	82.9	蘇 福 (1級535)	きよらか (1級31491)	" 阿蘇郡高森町 本 川 朝 一
高2002	第 二 うめしげ	83.4	第一重川 (1級517)	第二さかえ (1級37261)	" " " 三 森 繁 孝
高2003	まつはな	81.7	蘇 幸 (1級480)	ま つ え い (高 773)	" " 白 水 村 長 崎 実
高2004	たまはな	82.7	球 福 (1級426)	た か は な (1級26602)	" " 長陽村 下 田 正 義
高2005	はつとみ	85.1	重 福 (高47)	はつふく (1級22473)	" " 白 水 村 佐 藤 敏 雄

高等登録 番号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高2006	ふくもり	82.2	光 武 (高58)	ひさもり (1級43381)	熊本県阿蘇郡長陽村 村上 末 広
高2007	としまる	85.1	重 福 (高47)	つぼみ (1級26617)	" " 久木野村 大塚 久喜生
高2008	第二はな	80.6	光 武 (高58)	は な (1級38598)	" " 長陽村 野田 瞳
高2009	はなみつ	84.7	楠 金 (1級361)	これはな (1級41093)	" " 高森町 住吉 恒 光
高2010	ふくりゅう	81.4	蘇 竜 (高55)	ふくもと (1級35457)	" " 白水村 田尻 正 士
高2011	第九よしえ	82.7	蘇 竜 (高55)	つぎえい (高 365)	" " 久木野村 古沢 勝 康
高2012	くすほし	80.1	楠 金 (1級361)	ほ し (1級25790)	" " 高森町 児玉 福 男
高2013	やすはな	82.0	楠 金 (1級361)	第六やすなり (1級17227)	" " " " 本 田 昭 信
高2014	すすき	81.3	第二重川 (高53)	のりみつ (1級26649)	" " 長陽村 古庄 正 俊
高2015	ひらく	83.7	福 花 (高31)	つぼみ (本 5732)	" " 高森町 栗焼 章 聖
高2016	は な	83.0	球 福 (1級426)	み え (本 6861)	" " 久木野村 後藤 貞 光
高2017	第一 ひめゆり	84.0	第二重宝 (1級518)	み つ (1級34661)	" " 阿蘇町 田代 次 治
高2018	第二 つえたから	84.1	第一重川 (1級517)	つえたから (1級28235)	" " 産山村 井 信 行
高2019	第三たま	83.6	第一重川 (1級517)	たまひめ (1級23464)	" " 一の宮町 渡辺 末 利
高2020	第一 ひめまる	84.2	第一重川 (1級517)	ひめまる (2級熊24102)	" " 阿蘇町 西 丸 雄
高2021	第三 はつひめ	82.0	重 宝 (高40)	はつひめ (高 1192)	" " 一の宮町 山部 貢
高2022	は な	82.6	球 福 (1級426)	まりかぜ (1級33809)	" " 阿蘇町 森田 和 子
高2023	てつひめ	83.2	龍 光 (1級424)	たまふく (1級12994)	大分県直入郡荻町 後藤 哲 雄
高2024	かづひめ	82.3	竜 明 (高39)	かずみや (1級35932)	熊本県阿蘇郡波野村 久保 鎮 男
高2025	まるなみ	83.4	第二重川 (高53)	第二まるえい (1級13123)	" " 阿蘇町 西村 勇 誠
高2026	あやめ	83.8	竜 明 (高39)	第二あやめ (1級30642)	" " " " 德 永 嘉 富
高2027	しげはな	83.4	重 宝 (高40)	さかえ (1級15480)	" " 一の宮町 森本 忠 雄
高2028	やえさつき	82.4	重 丸 (1級366)	第一さつき (1級30631)	" " " " 岩 永 浅 男
高2029	や よ い	82.1	重 玉 (高11)	ち よ (1級16285)	" " " " 伊藤 勝 喜
高2030	ふじみつ	84.8	重 玉 (高11)	ふじはな (1級 1173)	" " 阿蘇町 伊藤 広 義

高等登録 番号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高2031	は な	82.6	第一重川 (1級517)	第二はる (1級41048)	大分県直入郡萩町 後 藤 文 男
高2032	さ か え	84.3	第四栄 (1級383)	第二なるみ (1級28353)	" " " 後 藤 尚 文
高2033	ゆ う こ	83.2	第二重川 (高53)	第二はまれ (1級36560)	熊本県阿蘇郡長陽村 長 野 功 一
高2034	さ さ た け	81.5	光 武 (高58)	ささいわ (1級44458)	" 下益城郡松橋町 嶽 柄 茂 徳
高2035	つるみどり	82.2	久 旗 (高29)	はるみどり (1級25115)	" " 砥用町 宮 崎 利 秋
高2036	つるひめ	82.4	弦 重 (1級396)	はつひめ (1級 7889)	" 上益城郡益城町 島 田 利
高2037	まるはな	83.9	重 福 (高47)	ふくまる (1級36612)	" 鹿本郡菊鹿町 桑 名 英 美
高2038	ふ く え	83.0	重 福 (高47)	ふくまつ (1級36662)	" 山鹿市 宮 本 道 春
高2039	ま き	83.9	光 武 (高58)	第四さかえ (1級26273)	" 上益城郡清和村 藤 原 鶴 男
高2040	ひめゆり	81.0	蘇 明 (高30)	みつはな (高 1038)	" " 甲 斐 貞 熊
高2041	ゆ り	83.7	第三重川 (高61)	はるよ (2級熊30291)	" " 矢部町 村 山 一 彦
高2042	み ず ほ	83.1	松 房 (高60)	とみこ (2級熊35294)	" " 佐 野 天 勇
高2043	ふじはな	81.3	第二重川 (高53)	ふじみつ (1級30602)	" " 藤 本 憲 義
高2044	さ く ら	82.2	松 房 (高60)	くさぎく (高 1260)	" " 村 上 一 人
高2045	ふくみつ	85.0	光 武 (高58)	ふ く (2級熊35348)	" " 吉 本 泰 二
高2046	み つ る	81.6	菊 一 (高42)	みのる (高 105)	" 鹿本郡菊鹿町 横 田 武 敏
高2047	ふみさかえ	81.5	重 波 (高48)	ともさかえ (1級40445)	" 菊池市 渡 辺 征 一
高2048	くすひろ	82.7	蘇 明 (高30)	くすはな (2級熊11134)	" 阿蘇郡小国町 時 松 博 次
高2049	ふ じ	83.9	蘇 殖 (高56)	わかば2 (1級21154)	" 人吉市 寺 田 ヤ マ
高2050	ひ め	87.1	球 泉 (1級463)	なつひめ (1級41536)	" " 大 童 政 幸
高2051	た か み	83.0	蘇 殖 (高56)	さくら (1級15255)	" " 向 岩 惣 一
高2052	ひ め	82.8	蘇 殖 (高56)	とよひめ (1級36890)	" 球磨郡錦村 西 重 幸
高2053	第三かつよ	80.4	第六蘇殖 (1級528)	か つ よ (1級15802)	" " 上村 藤 本 頼 光
高2054	のぶひめ	82.0	蘇 殖 (高56)	たかもり (1級41790)	" " " "
高2055	第二さなえ	80.6	蘇 殖 (高56)	第二すすむ (高 985)	" " 免田町 免 田 光 則

高等登録番 号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高2056	しげはた	83.6	蘇 旗 (1級458)	はつしげ (1級37755)	熊本県球磨郡多良木町 那 須 大 助
高2057	ま る	84.6	蘇 月 (高35)	ふ た み (1級30107)	" " 湯前町 栗 秋 洋 一
高2058	み わ 三	83.4	蘇 殖 (高56)	み わ 一 (1級30245)	" " 須恵村 浜 田 武 保
高2059	な つ	84.6	松 房 (高60)	とよぎく (1級16212)	" " 深田村 高 田 昭 八
高2060	め ぐ み	81.2	重 波 (高48)	しゆふく (1級13328)	" " 相良村 上 村 栄
高2061	き く み	81.5	光 力 (高27)	はつふく (高 717)	" " 山江村 宮 原 忠 孝
高2062	さ い こ	83.6	光 力 (高27)	や よ い (高 1108)	" " " 方 靖 子
高2063	はるひめ	83.3	蘇 竜 (高55)	第三ふくみ (高 1718)	" " " 山 本 重 雄
高2064	い わ い	84.5	蘇 殖 (高56)	は つ め (1級40756)	" " " 宮 原 十 二
高2065	ま る	82.5	蘇 殖 (高56)	第五いつき (1級35261)	" " " 勝 山 幸 人
高2066	そ ふ じ	82.2	蘇 重 (1級466)	は ま ゆ (1級 3214)	" " " 稻 留 貢
高2067	はまさかえ	80.9	重 房 (1級398)	さ か え (2級熊15805)	" " 球磨村 内 布 澄 男
高2068	や よ い	87.4	蘇 玉 (1級347)	め ぐ み (高 498)	" 菊池郡菊陽町 東 清 成
高2069	み は る	88.3	光 武 (高58)	第三ふじ (1級47391)	" 大津町 村 山 勉
高2070	み つ こ	83.5	重 丸 (1級318)	た ま る (高 836)	" " 古 庄 広 美
高2071	ひ ろ こ	81.4	房 春 (1級443)	第五たから (2級熊12855)	" " 永 田 一
高2072	第 五 し ら ゆ り	84.5	重 宝 (高40)	と し こ (高 219)	" " 今 村 維 詔
高2073	ふじくに	82.8	国 盛 (高33)	ふ じ こ (1級23027)	" 山鹿市 田 辺 穂 積
高2074	たかやす	82.0	重 福 (高47)	う め (2級熊32688)	" 鹿本郡植木町 林 田 利 雄
高2075	第 三 ふ く つ る	81.0	第三重川 (高61)	ふ く つ る (高 1298)	" " " 安 丸 貞 記
高2076	よ し こ	82.6	春 玉 (高44)	た い こ (1級16770)	秋田県北秋田郡森吉町 武 石 チ ヨ
高2077	第 三 さ く	81.1	第二栄豊 (1級254)	第一さく (1級23353)	" " " 吉 田 作 治
高2078	よ し み	85.0	義 明 (1級484)	よ し ひ め (1級32818)	" " 鷹巣町 佐 藤 忠 雄
高2079	第 一 ふ じ	85.7	春 玉 (高44)	さ か え (1級26264)	" " " 佐 藤 丹 藏
高2080	は な こ	85.1	第二竜明 (高49)	と み え (1級34196)	" " " 桜 庭 德 治

高等登録 番号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高2081	はなひめ	85.7	春 玉 (高44)	かねはる (1級17889)	秋田県北秋田郡鷹巣町 米 沢 正 一
高2082	たかひめ	82.1	重 波 (高48)	みつえい (1級41385)	熊本県下益城郡砥用町 井 上 明
高2083	さくら	82.2	第三重川 (高61)	みどり (1級45448)	" " " " 池 田 健 次
高2084	いとそ	82.6	蘇 月 (高35)	つぐしげ (1級 45966)	" 阿蘇郡長陽村 熊本種畜牧場阿蘇支場
高2085	くすさかえ	81.0	重 栄 (1級479)	くすゆき (1級 41241)	" " " " "
高2086	うらさかえ	83.8	重 栄 (1級479)	こがね (2級熊19817)	" " " " "
高2087	は つ	83.0	蘇 明 (高30)	みつとし (1級29976)	" " 蘇陽町 佐 藤 靖
高2088	としなみ	84.5	初 宝 (高62)	としまる (高 763)	" " 白水村 古 沢 久仁尊
高2089	ふ み え	80.3	蘇 幸 (1級480)	ふ み (高 952)	" " 高森町 本 田 寿 幸
高2090	ほうえい	84.7	重 栄 (1級479)	ほうざん (1級 289)	" " " " 熊 谷 宗 人
高2091	さかえ	82.1	蘇 重 (1級466)	みのり (1級29487)	" " 蘇陽町 飯 星 一 男
高2092	みつとみ	83.9	光 武 (高58)	そよかぜ (1級 6077)	" 菊池郡大津町 野 錦 一 徳
高2093	第一すすき	83.4	重 栄 (1級479)	すすき (高 2014)	" 阿蘇郡長陽村 古 庄 正 治
高2094	みつかぜ	84.5	蘇 月 (高35)	みつとみ (高 1577)	" " 高森町 岩 下 九州男
高2095	第四たかね	84.4	重 福 (高47)	たかね (高 1019)	" " 蘇陽町 山 辺 修
高2096	たまかぜ	83.6	重 福 (高47)	たまふみ (1級14626)	" " 高森町 山 室 忠 徳
高2097	第五よしえい	85.6	重 福 (高47)	第四よしえい (高 1095)	" " 長陽村 山 口 深
高2098	けさいち	84.0	福 花 (高31)	まるいち (1級 4291)	" " 高森町 児 玉 邦 昭
高2099	ももえ	83.8	重 福 (高47)	なかまる (1級24437)	" " " " 田 上 誠 喜
高2100	ふくとみ	80.9	蘇 竜 (高55)	とよふく (1級 4271)	" " " " 増 田 喜久吉
高2101	えいほう	84.0	蘇 竜 (高55)	ほうえい (高 1584)	" " " " 瀬 井 二 男
高2102	さかえ	81.2	福 花 (高31)	としみつ (高 936)	" " 長陽村 長 野 国 勝
高2103	はなみ	83.4	楠 金 (1級361)	は な (高 1625)	" " 高森町 矢津田 深
高2104	ふ さ	80.9	重 福 (高47)	しらふじ (1級 1547)	" " " " 大内田 親
高2105	第一はな	85.0	第一重川 (1級517)	は な (1級35916)	" " " " 一の宮町 渡 辺 立 作

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高2106	ふくこ	83.0	重宝 (高40)	しげこ (1級19303)	熊本県阿蘇郡阿蘇町 本田 小一
高2107	はなまる	83.1	重宝 (高40)	しげふじ (1級4473)	" " " 大倉 幸人
高2108	はなさかえ	83.6	重宝 (高40)	みつる (1級11023)	" " 一の宮町 筑紫 元喜
高2109	ひかり一	83.5	第三重川 (高53)	みたま (高255)	" " " 蔵原 八部
高2110	さかえ	82.7	重宝 (高40)	とる (2級熊24877)	" " 阿蘇町 幸留 喜
高2111	はるひめ	81.5	光富 (1級382)	さかえ (1級22292)	" " " 湯浅 正司
高2112	ふくにしき	85.1	重宝 (高40)	かずこ (高970)	" " " 大和 秀雄
高2113	まさみ	82.4	第二重川 (高53)	まさ (1級30369)	" " 波野村 入田 市次
高2114	なみたから	84.1	重宝 (高40)	たまなみ (1級22261)	" " 阿蘇町 下村 敏明
高2115	まるはな	82.1	第二重川 (高53)	まるみ (本5005)	" " 一の宮町 井野 昭男
高2116	たまみ	80.5	竜明 (高39)	ひかり (1級21486)	" " 阿蘇町 中島 文夫
高2117	第ふく二 なみ	84.3	重玉 (高11)	しらゆり (1級11058)	" " 一の宮町 小宮 健蔵
高2118	第一さつき	81.4	重玉 (高11)	みやさかえ (1級17318)	" " 阿蘇町 成瀬 清幸
高2119	ふくみ	83.1	重松 (1級514)	あやめ (1級33379)	" 菊池市 山下 信義
高2120	しげる	83.8	重光 (高59)	ひかる (1級11805)	" 菊池郡泗水町 坂本 咲栄樹
高2121	第二ふじ	83.3	重光 (高59)	みつふじ (1級23289)	" " 旭志村 稗田 鉄蔵
高2122	第四ふじ	85.8	重光 (高59)	ふじ (1級30825)	" " " 岩根 孝嗣
高2123	はるよ	82.0	重金 (級441)	やよい (高1335)	" " 西合志町 入江 隆喜
高2124	きくよ	81.8	蘇菊 (1級169)	みえこ (1級13093)	" 菊池市 小林 雄恵
高2125	第二さかえ	82.5	蘇月 (高35)	第八さかえ (1級45365)	" " 池田 真誠
高2126	ゆき	82.8	蘇月 (高35)	へばる (2級熊11314)	" 玉名郡南関町 阪田 重行
高2127	はつはな	81.2	第二楠風 (1級331)	はまよし (本3141)	" 菊池郡菊陽町 古荘 則幸
高2128	はつこ	80.7	第四栄 (1級383)	第二はま (1級31107)	" 上益城郡清和村 中川 淀
高2129	第二はま	81.1	蘇明 (高30)	はま (2級熊10851)	" " " "
高2130	とみひかり	81.3	竜栄 (高20)	とみ (本6273)	" " " 立田 健

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高2131	あかね	81.2	光武 (高58)	ふく (2級熊 4646)	熊本県上益城郡矢部町 松本 孝保
高2132	いわみどり	82.8	白岩 (高52)	みどり (1級42043)	" " 甲斐 真二
高2133	たつふく	83.2	第二竜明 (高49)	ふくとみ (高 858)	" 阿蘇国小国町 櫛原 静夫
高2134	さかえ	83.1	球泉 (1級463)	りゅうこ (高 1228)	" 人吉市 松村 幸男
高2135	いはな	80.7	蘇月 (高35)	さつき (1級29444)	" 球磨郡錦町 坂本 茂雄
高2136	ふじひめ	84.7	蘇殖 (高56)	たかこ (1級35143)	" " 富岡 進
高2137	第二むつめ	83.9	蘇月 (高35)	むつめ (高 978)	" " 高田 邦人
高2138	とみ	82.0	蘇月 (高35)	さくら (1級29418)	" " 村津 高德
高2139	このみ	82.2	球泉 (1級463)	第三はつめ (高 867)	" " 水上村 田川 政任
高2140	第五さかえ	83.6	球泉 (1級463)	さかえ (高 1047)	" " 免田町 中村 継義
高2141	さかえ	83.0	蘇殖 (高56)	よしこ (1級29275)	" " 岡原村 稲真 秋人
高2142	はなえ	82.0	第二球光 (高63)	はなこ (1級47515)	" " 多良木町 岩下 憲幸
高2143	第二さちひめ	84.0	房球 (1級464)	さちひめ (1級11253)	" " 溝辺 武雄
高2144	ゆきこ	85.1	光花 (1級487)	しげはな (1級25297)	" " 益田 実美
高2145	第六ふじひめ	83.6	蘇殖 (高56)	ふじひめ (高 413)	" " 岡村 慎一
高2146	ふくまる	85.2	蘇殖 (高56)	わかくさ (1級21214)	" " 那須 定八
高2147	はるみ一	88.9	球泉 (1級463)	はるみ (高 1481)	" " 湯前町 白川 一男
高2148	ふくひめ	83.9	重春 (1級447)	ひとり (高 977)	" " 米良 伊平
高2149	さえ	80.7	球泉 (1級463)	はつひめ (1級23989)	" " 馴松 高
高2150	れんげ	80.9	桜 (1級326)	第五さかえ (1級11529)	" " 出田 登
高2151	はる	81.5	蘇殖 (高56)	はるみ (1級22843)	" " 水上村 杉野 二男
高2152	さかえみ	81.6	重宝 (高40)	あきまる (1級 5211)	" " 須恵村 恒松 好右
高2153	ふじひめ	84.8	蘇殖 (高56)	みつふじ (1級27820)	" " 深田村 松永 港
高2154	ふみ	80.8	球光 (高26)	第二さち (1級22888)	" " 相良村 山内 徹
高2155	かつひめ	82.0	球泉 (1級463)	第三たまみ (2級熊29380)	" " 川辺 福光

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高2156	第二はるにしき	83.9	秋光 (1級375)	はるにしき (高1147)	熊本県球磨郡山江村 小崎 一見
高2157	ひめ	81.3	重福 (高47)	みつひめ (1級5485)	" " " 山本 義隆
高2158	さかえ	83.3	光武 (高58)	ふくえ (高877)	" " " 山喜美男
高2159	きく	84.8	第二球光 (高63)	はな (1級34332)	" " " 岩坂 吉春
高2160	つきこ	82.8	蘇殖 (高56)	たまみつ (高1048)	" " 球磨村 小川 茂
高2161	はな	83.5	第六蘇殖 (1級528)	ひろこ (1級41704)	" " " 信国 厚志
高2162	はる	81.4	蘇竜 (高55)	きくひめ (2級熊32213)	" 芦北郡芦北町 荒川 実
高2163	はつひめ	81.8	球宝 (1級416)	ふくひめ (1級35388)	" 球磨郡湯前町 岩本 新太郎
高2164	きく	83.4	蘇殖 (高56)	さつき (1級5532)	" " 上村上 池 義春
高2165	しげたから	80.5	重福 (高47)	たから (1級36441)	" 鹿本郡鹿北町 河内 一成
高2166	第二さかえ	81.7	重福 (高47)	第八さかえ (1級45365)	" 菊池郡旭志村 大塚 文雄
高2167	第二かめ	83.5	重宝 (高40)	かめ (1級30589)	" 菊池市 今村 敏継





# ◎ あか牛子牛市況

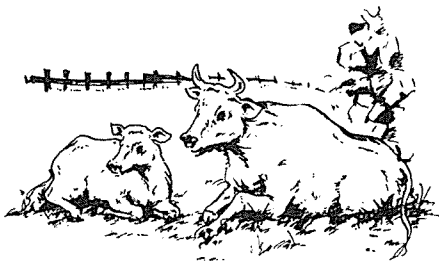
(59年8月～12月)

県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高価格	最低価格	平均価格
北海道	59.14 10. 5 18	大野	めす	384	231,000 <sup>円</sup>	30,000 <sup>円</sup>	105,854 <sup>円</sup>
			おす	213	202,000	40,000	104,892
			去勢	226	270,000	37,000	145,176
秋             田             県	8.24	北秋田	めす	99	690,000	56,000	217,889
			おす	1	170,000	—	—
			去勢	92	371,000	100,000	275,859
	8.25	二ツ井	めす	70	350,000	171,000	242,857
			おす	1	101,000	—	—
			去勢	64	380,000	141,000	294,422
	8.30	中央	めす	8	243,000	156,000	196,250
			去勢	2	358,000	185,000	271,500
	10.21	能代	めす	74	405,000	145,000	273,108
			おす	70	388,000	192,000	291,614
	10.22	阿仁合	めす	49	402,000	68,000	186,306
			おす	29	204,000	91,000	163,000
			去勢	28	311,000	142,000	235,143
	10.23	前田	めす	27	250,000	141,000	184,889
			おす	5	213,000	163,000	188,200
		去勢	19	338,000	176,000	236,421	
10.24	北秋田	めす	78	572,000	142,000	254,718	
		おす	2	94,000	82,000	88,000	
		去勢	102	368,000	106,000	275,284	
10.27	鹿角	おす	1	184,000	—	—	
11.12	中央	めす	31	362,000	130,000	223,225	
		去勢	39	416,000	83,000	281,153	
12.13	能代	めす	71	396,000	71,000	192,324	
		去勢	74	310,000	106,000	234,392	
12.14	阿仁合	めす	13	216,000	80,000	151,846	
		去勢	15	222,000	91,000	169,800	
12.15	北秋田	めす	76	709,000	71,000	204,868	
		去勢	68	352,000	91,000	263,926	
長崎県	7.6	対馬	めす	107	326,000	48,000	146,308
		おす	15	232,000	113,000	161,933	
		去勢	94	293,000	94,000	187,180	

長 崎 県	7. 12	島 原	めす おす 去勢	74 6 67	320,000 213,000 300,000	108,000 121,000 77,000	180,337 156,000 201,701
	9. 12	島 原	めす おす 去勢	69 1 61	379,000 107,000 338,000	119,000 — 125,000	198,869 — 234,803
	11. 6	対 馬	めす おす 去勢	105 15 107	334,000 302,000 325,000	36,000 43,000 59,000	180,276 164,600 222,775
	11. 12	島 原	めす おす 去勢	102 1 110	376,000 176,000 295,000	59,000 — 83,000	201,362 — 219,100
熊 本 県	7. 14 15	矢 部	めす おす 去勢	218 1 239	900,000 186,000 280,000	60,000 — 110,000	207,890 — 218,054
	7. 17 19	阿 蘇	めす おす 去勢	494 4 688	1,207,000 384,000 383,000	88,000 191,000 107,000	240,064 300,250 243,770
	7. 24	江 田	めす おす 去勢	61 11 63	300,000 205,000 296,000	94,000 130,000 108,000	171,704 156,818 213,920
	8. 4	西 原	めす おす 去勢	52 1 54	290,000 181,000 300,000	60,000 — 115,000	188,462 — 222,796
	8. 5 7	高 森	めす おす 去勢	465 7 613	1,300,000 500,000 348,000	100,000 118,000 100,000	204,200 262,429 218,540
	8. 9	小 国	めす おす 去勢	144 9 166	410,000 273,000 324,000	79,000 81,000 59,000	173,729 155,333 214,409
	8. 21	大 津	めす おす 去勢	172 2 134	1,040,000 500,000 311,000	60,000 204,000 85,000	205,651 352,000 224,992
	8. 22 23	菊 池	めす おす 去勢	260 2 244	1,110,000 540,000 347,000	106,000 430,000 110,000	212,127 485,000 226,520
	8. 24	山 鹿	めす おす 去勢	217 1 202	1,330,000 212,000 310,000	100,000 — 125,000	242,976 — 241,455
	8. 25 26	球 磨	めす おす 去勢	379 19 443	1,018,000 478,000 336,000	65,000 144,000 115,000	218,578 203,684 225,402

熊           本       県	9. 2	上益城	めす おす 去勢	52 12 51	400,000 238,000 316,000	98,000 115,000 97,000	172,653 184,416 209,764
	9. 3	下益城	めす おす 去勢	129 3 121	900,000 282,000 349,000	91,000 211,000 165,000	230,496 245,000 256,851
	9. 17 ) 19	阿 蘇	めす おす 去勢	561 5 699	1,265,000 402,000 378,000	142,000 200,000 128,000	259,531 271,400 274,208
	9. 20 ) 21	矢 部	めす おす 去勢	214 3 224	1,100,000 500,000 310,000	109,000 133,000 150,000	240,416 273,000 243,893
	10. 4	西 原	めす 去勢	61 62	650,000 360,000	175,000 158,000	247,721 262,435
	10. 5 ) 7	高 森	めす おす 去勢	386 7 476	1,300,000 500,000 388,000	80,000 90,000 153,000	270,764 291,429 274,044
	10. 9	小 国	めす おす 去勢	125 5 124	500,000 218,000 347,000	91,000 97,000 153,000	228,352 179,400 253,000
	10. 13	南 関	めす おす 去勢	44 9 52	520,000 290,000 360,000	186,000 180,000 204,000	244,409 231,889 262,058
	10. 25 ) 26	球 磨	めす おす 去勢	397 6 476	856,000 505,000 337,000	57,000 249,000 145,000	263,156 299,333 272,086
	11. 17 ) 19	阿 蘇	めす おす 去勢	531 8 625	1,095,000 451,000 382,000	126,000 205,000 112,000	255,502 347,250 284,448
	11. 20	山 鹿	めす おす 去勢	205 1 226	1,880,000 500,000 355,000	100,000 — 130,000	269,517 — 252,655
	11. 21	大 津	めす おす 去勢	146 1 169	800,000 505,000 358,000	100,000 — 170,000	241,696 — 263,923
	11. 22 ) 23	菊 池	めす おす 去勢	257 3 278	800,000 471,000 376,000	106,000 180,000 121,000	234,911 293,667 254,824
	11. 25 ) 26	矢 部	めす おす 去勢	255 2 312	1,000,000 275,000 325,000	75,000 105,000 140,000	230,529 190,000 236,603

熊 本 県	12. 2	上益城	めす おす 去勢	63 6 76	515,000 280,000 305,000	70,000 129,000 83,000	199,993 200,500 234,560
	12. 3	下益城	めす おす 去勢	137 2 159	850,000 610,000 372,000	125,000 235,000 154,000	264,949 422,500 256,855
	12. 4 5 6	高 森	めす おす 去勢	402 2 548	1,200,000 213,000 340,000	108,000 124,000 120,000	245,851 168,500 253,480
	12. 9	小 国	めす おす 去勢	122 6 118	365,000 252,000 345,000	100,000 130,000 120,000	195,664 192,167 249,635
	12. 14 15	球 磨	めす おす 去勢	428 7 514	1,317,000 403,000 347,000	89,000 146,000 134,000	257,313 251,429 258,107



# 肥後ビーフフェア開かる

熊本県は明るい太陽と豊富な草資源に恵れ、“あか牛”を主体として全国第4位の肉用牛の生産県である。

一方、“あか牛”の他にも多くの優れた生産物を持ちながら県民性すなわち“肥後モッコス”気質のため、「宣伝べた」といわれてきた。現在のように厳しい販売競争の中で、時代の変化に伴う消費者の要望に 대응していくためには、生産販売以上にPR活動が重要になっている。

そこで、関係者の間では特産品のあか牛肉を消費者に喜んでもらうため、いろいろと検討が重ねられてきた結果、新しくブランド名を“肥後牛又は肥後ビーフ”として、県及び関係団体が一体となって宣伝販売することになった。

今回の肥後ビーフフェアは、うし年の年頭をかざる行事の一環として1月10日から30日まで、東京銀座、日本橋の優良レストラン8社29店舗の協力を受けて実施されたものである。

1月10日のレセプションでは、農水省はじめ各界の代表者など約300名の来賓、出席者を前に、細川護熙熊本県知事が「太陽と緑の中で育った“肥後牛”を日本一うまい牛肉として今後大いに売り込んでいきたい」とあいさつ、協賛店などに感謝状の贈呈があった。

20日間の期間中に協賛レストランで使用されたあか牛肉はヒレ、ロースを中心に5.5トン、客数は2万人におよんだ。又、肥後ビーフに対するアンケート調査によれば、9割近くが「やわらかくて、おいしい」と答えており、レストラン側では今後もこのフェアを続けていきたいと希望している。



レセプションでの知事とレストラングループ



# 謹 賀 新 年

昭和60年元旦

社団法人 日本あか牛登録協会

会 長	堀	力	理 事	国 武	博
副 会 長	今 村	来	理 事	帆 保	義 信
常務理事	城	光 宣	理 事	池 本	広 志
常務理事	山 部	龍 三	理 事	小 林	俊 夫
理 事	小 林	友 寿	理 事	北 里	達之助
理 事	成 田	広 造	理 事	魚 住	汎 英
理 事	市 川	昭 吉	理 事	井野口	市三郎
理 事	佐 藤	平 安	監 事	増 本	健 一
理 事	佐 藤	鉄 山	監 事	緒 方	清 臣
理 事	高 田	昭二郎	監 事	梅 下	国 雄

## 刊行物頒布案内

- 褐毛和種登録簿（各巻1冊）…………… 4,000円
- 褐毛和種正常発育曲線（雄・雌各1部）…………… 500円
- 機関誌「あか牛」（各号1部）…………… 200円
- 褐毛和種審査必携（2組）…………… 100円
- あか牛の経済性に関する研究…………… 1,200円
- 「日本あか牛登録協会30年の歩み」…………… 1,500円

代金前納申込みのこと

申込先……………熊本市草葉町1-21 畜産会館内

社団法人 日本あか牛登録協会

第 54 号

昭和 60 年 1 月 25 日 印刷

昭和 60 年 1 月 31 日 発行

編 集 川 崎 広 通

印 刷 者  
村 嶋 農 志 郎

発 行 所 日本あか牛登録協会  
熊本市草葉町 1-21  
畜産会館内  
振替 熊本 1510  
T E L (096) 356-7597  
〒860

印 刷 所  
村 嶋 印 刷  
熊本市小山町 4 2 3  
T E L (380) 7 0 9 5  
〒861-22